

下田総合庁舎 定例記者懇談会資料

令和6年12月25日

賀茂地域局

次回の定例記者懇談会
令和7年1月24日（金）
午前9時30分から
会場：賀茂キャンパス

目 次

◎重要施策発表

静岡県観光動向と取組	1
	(伊豆観光局)

治山工事での木材利用	14
	(賀茂農林事務所)

◎令和7年1月の行事予定

行事予定表	33
-------	----

地震対策オペレーション2025（大規模図上訓練）	35
	(賀茂地域局)

1月の防災講座	36
	(賀茂地域局)

令和6年度賀茂圏域生活習慣病対策連絡会	37
	(賀茂健康福祉センター)

本県オリジナルの鉢物用花き「ビジューマム」3品種を育成	38
	(伊豆農業研究センター)

定例記者懇談会構成員名簿

	役職名	氏名
1	賀茂地域局長	しらとり みちひろ 白鳥 満啓
2	賀茂地域局副局長兼賀茂危機管理監	やまなし よしゆき 山梨 義之
3	伊豆観光局長	いちかわ けん 市川 顯
4	下田財務事務所長	かみや あきよし 神谷 明良
5	賀茂健康福祉センター所長	すずき ふじお 鈴木 藤生
6	賀茂健康福祉センター医監兼賀茂保健所長	ほんま よしゆき 本間 善之
7	賀茂農林事務所長	ふかの ちえこ 深野 智恵子
8	農林技術研究所伊豆農業研究センター長	ばば ふじお 馬場 富二夫
9	水産・海洋技術研究所伊豆分場長	わしやま ひろふみ 鷺山 裕史
10	下田土木事務所長	さとう まさふみ 佐藤 雅史
11	賀茂広域消費生活センター所長	くらしま ひろあき 倉島 浩彰
12	賀茂出納室長	まつなが としの 松永 俊乃
13	賀茂地域教育振興センター参事	つちや かずみ 土屋 一巳
14	賀茂地域局次長兼地域課長	しらつち たつお 白土 達夫
15	賀茂地域局参事兼危機管理課長	すずき かなめ 鈴木 要

静岡県観光動向と取組

静岡県東部地域局 伊豆観光局

伊豆半島の概況

構成市町

【7市6町】

沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町

項目	伊豆半島	全県
対象市町	13市町	35市町
面積	1,545km ² (20%)	7,777km ²
人口	55万人(16%)	350万人
総生産 (R1)	2兆2,000億円(12%)	17兆8,000億円
うち宿泊・飲食	1,200億円(32%)	3,800億円
旅館・ホテル・簡易宿泊所数 (R5)	2,995軒(72%)	4,154軒
観光交流客数 (R5)	3,900万人(28%)	1億3,960万人
うち宿泊客数	1,021万人(55%)	1,867万人

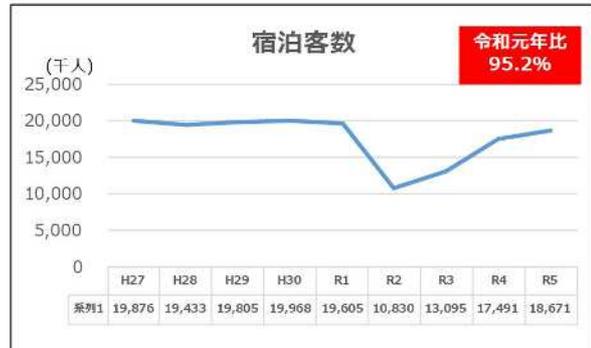
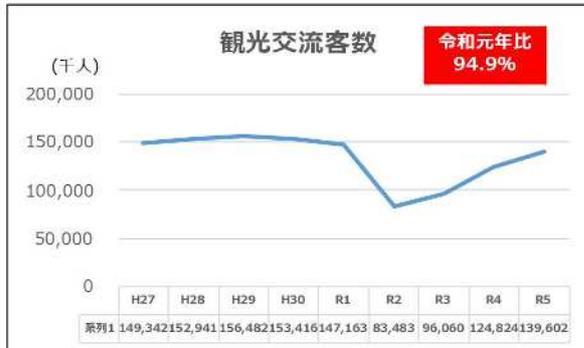
※ ()内は全県の数値との比較



2

- ・伊豆半島の構成市町は7市6町
- ・面積は静岡県全体の約20%、人口は静岡県全体の約16%
- ・総生産は県全体の約12%だが、宿泊・飲食業で見ると県全体の約32%を占める
- ・旅館・ホテル・簡易宿泊所数は、静岡県全体の約72%を占める

静岡県観光の動向

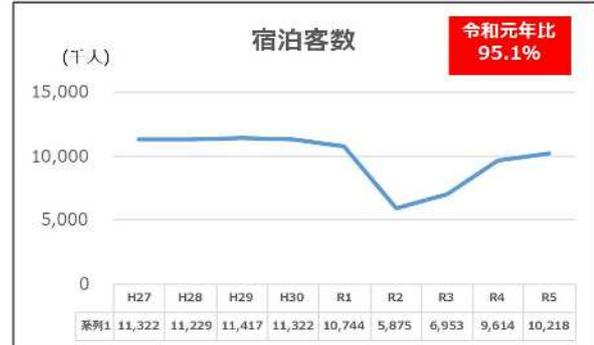
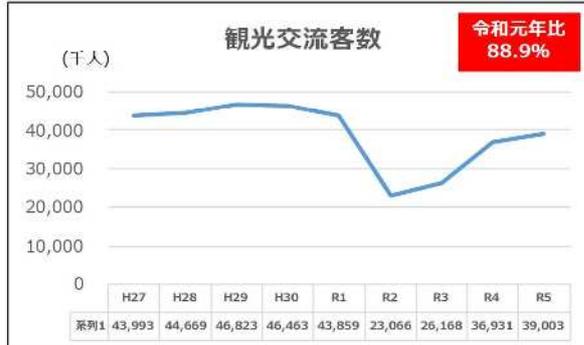


静岡県スポーツ・文化観光部 観光交流局 観光政策課調

○観光交流客数、宿泊客数ともに、コロナ禍前の令和元年度と比べ約95%と完全には回復していない。

- ・令和5年度の観光交流客数は1億3,960万人、宿泊客数は1,867万人
- ・観光交流客数、宿泊客数ともに、コロナ禍前の令和元年度比約95%と、完全には回復していない

伊豆半島の観光の動向

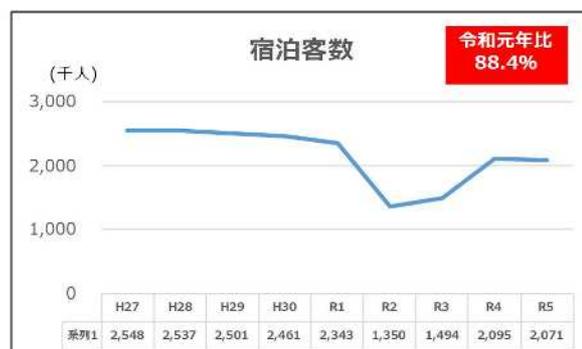
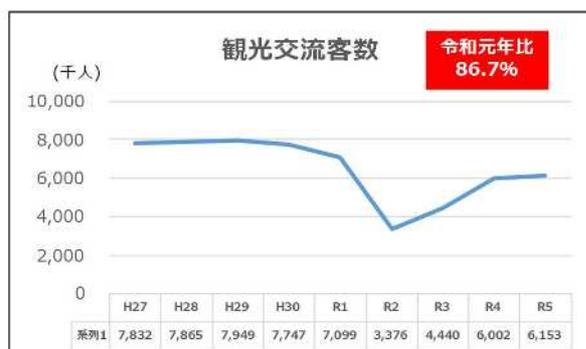


静岡県スポーツ・文化観光部 観光交流局 観光政策課調

- 令和2年度には、観光交流客数、宿泊客数ともに新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大幅に減少した。
- 令和5年度の観光交流客数、宿泊客数は、コロナ前の令和元年度と比べ回復が鈍い。

- ・令和5年度の伊豆地域の観光交流客数は3,900万人、宿泊客数は1,021万人
- ・静岡県全体の数値と同様、観光交流客数、宿泊客数ともに、コロナ禍前の令和元年度と比べ回復が鈍い

賀茂地域の観光の動向



静岡県スポーツ・文化観光部 観光交流局 観光政策課調

○令和2年度には、観光交流客数、宿泊客数ともに新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大幅に減少した。

○賀茂地域はさらに、観光交流客数、宿泊客数ともに、コロナ前と比較して回復が鈍い。

5

- ・令和5年度の賀茂地域の観光交流客数は615万人、宿泊客数は207万人
- ・賀茂地域はさらに、観光交流客数、宿泊客数ともに、コロナ禍前と比較して回復が鈍い

県内の宿泊施設

令和5年 宿泊施設の客室稼働率（観光庁 宿泊旅行統計調査より）

静岡県：49.9%（全国33位）、全国：57.0%



全国的に見ても、客室稼働率が低い

【要因】

- 7割超の企業で**人手不足**となっている
- 要因として①**低賃金**、②**休日が少ない**、③**不安定雇用**のほか、「中抜け」と言われる特殊な勤務形態や拘束時間の長さなどが挙げられる。
- 伊豆半島の宿泊施設の立地が、温泉やリゾート地であり都会的な利便性に欠け、民間の賃貸住宅も少なく社員寮も**老朽化が進んでいる**

6

【県内の宿泊施設の状況】

・令和5年度の宿泊施設客室稼働率は49.9%で、全国33位の数字。（全国：57%）

・全国的にみても、客室稼働率が低い

【要因】

- ・宿泊業の7割超の企業で人手不足となっている
- ・①低賃金、②休日が少ない、③不安定雇用のほか、特殊な勤務形態や拘束時間の長さ
- ・社員寮不足や老朽化

インバウンドの動向

静岡県外国人延べ宿泊者数推移（月別） 出典：静岡県観光協会



○最新のインバウンドの月別状況を見ると、日本全体では過去最高値を更新しているが、本県は全国に比べ回復が遅れている。

【インバウンドの動向】

- ・日本全体では月別の訪日外国人旅行者数が9か月連続で過去最高を更新している
- ・静岡県はコロナ禍前の約70%にとどまっている
- ・中国からの旅行者が10%台にとどまり回復していないことが大きく影響している
- ・台湾、香港、シンガポール、オーストラリアは全国よりも高い伸び率で回復している

夏季期間中の海水浴客数の推移（下田市）



- 夏の高温化、少子化、ライフスタイルの変化が影響し、年々減少している。
- 令和6年度は約**21万人**で、平成7年度（約111万人）の**18.6%**

【海水浴客の推移（下田市）】

- ・平成7年度は約111万人だったのに対し、令和6年度は約21万人。
- ・平成17年と比較すると、令和6年は18.6%にとどまっている。
- ・夏の高温下、少子化、ライフスタイルの変化が影響していると考えられる。

課題と対応施策

課題	取組
①回復途上にある観光需要の喚起	平日旅行需要の喚起 →「行くなら、今なの！静岡トク旅」※終了
②宿泊施設稼働率の回復	人手不足の解消、業務効率化 →「宿泊業の経営基盤強化事業費助成」
③インバウンド需要の回復	インバウンド観光の課題解決支援 →「SHIZUOKA INBOUND TOURISM INNOVATION 2024」
④海水浴客の減少	海水浴に代わるマリレジャー、アクティビティの可能性 →伊豆半島の沿岸利用状況を調査

9

- ・このような状況から、4つの課題が挙げられる
- ・課題に対して、県観光交流局、伊豆観光局では、次のような取組を実施している

①「行くなら、今なの！静岡トク旅」

概要

- 平日の旅行需要を喚起するとともに、県内周遊・滞在を促進
- 既存事業を組み合わせ、統一的に情報発信することで、事業効果を最大化



項目	内容
泊まって巡ってしず旅スタンプラリー (11月5日～12月20日)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光アプリ「TIPS」を活用したデジタルスタンプラリー ・宿泊施設、観光施設が対象 (宿泊施設のスタンプ獲得は平日限定) ・2,000名に5,000円宿泊券ほか
団体旅行需要の底上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・要件を満たした団体旅行のバス代支援1台30,000円 (県内宿泊、平日2日以上での団体旅行 など)
富士山静岡空港×レンタカーキャンペーン	対象：富士山静岡空港を往復利用 支援：3,000円分の商品券 (空港で利用可能)
アニメ「ゆるキャン△」モデル地の周遊促進	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル地を巡るデジタルスタンプラリー ・パネル展の開催 (静岡空港、大井川鐵道 新金谷駅)
インバウンドの回復に向けた集中的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・海外OTAサイトを活用した情報発信 ・開港15周年にあわせた割引キャンペーン

広報プロモーション

- 本県出身のタレント **なえなの** 氏をアンバサダーに起用
- SNSによるショート動画の配信、WEB動画広告、バナー広告の配信
- ポスター掲出、チラシ配布
- 県の広報媒体による発信



10

【①行くなら、今なの！静岡トク旅※期間終了】

- ・平日の旅行需要を喚起するとともに、県内周遊・滞在を促進
- ・既存事業を組み合わせ、統一的に情報発信することで、事業効果を最大化
- ・広報プロモーションとして、本県出身のタレント「なえなの」氏をアンバサダーに起用

②宿泊業の経営力基盤強化事業費助成

事業内容

○デジタル技術の導入による業務効率化や生産性の向上、社員寮の整備に対する支援制度

対象者：宿泊事業者等

補助率：補助対象経費の1/4を上限（市町が補助する額と同額以内）

区分	内容
業務効率化 生産性向上	デジタル技術導入による業務効率化・生産性向上に向けた取組に対する助成 ・対象：配膳、お掃除ロボット、スマートチェックインシステムの導入 ほか ・上限：750千円/施設
従業員の住環境 の改善	社員寮の整備に対する助成 ・対象：従業員宿泊施設の更新・改修 ・上限：①更新：2,000千円/戸（最大10戸/件） ※複数事業者が共同で更新を行う場合は最大15戸/件 ②改修：250千円/戸（最大10戸/件）

導入事例

【業務効率化・生産性向上】

●ホテル伊豆急

「翻訳ディスプレイの導入」

- ・TOPPAN社製の翻訳ディスプレイを導入
- ・会話を英語や中国語など13言語に瞬時に変換し映し出すことで円滑なフロント業務を目指す

年間0.31人工の補充が可能



【従業員の住環境の改善】

●ヴィラくれたけ

「従業員宿泊施設の改修」

- ・現状、共同トイレ・浴場となっている部屋を改修し、各部屋にトイレとシャワーブースを設置
- ・寮内にWi-Fi環境を整備

従業員の居住性を向上

【②宿泊業の経営力基盤強化事業費助成】

- ・デジタル技術の導入による業務効率化や生産性の向上、社員寮の整備に対する支援制度
- ・宿泊事業者を対象とし、補助対象経費の4分の1を補助
- ・事例として、「翻訳ディスプレイの導入」、「従業員宿泊施設の改修」などが挙げられる
- ・賀茂地域では、下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、西伊豆町で取り組まれている。

③SHIZUOKA INBOUND TOURISM INNOVATION 2024

事業内容

○インバウンド観光客に関わる様々な課題解決に取り組むため、(株)静岡銀行及びCreww(株)と連携し、県内8自治体とスタートアップ企業のアイデアをマッチングするプロジェクト

※Creww(株)・・・8,000社を超えるスタートアップとの関係を有し、企業・自治体のオープンイノベーションをサポート

参加自治体：島田市、御殿場市、袋井市、下田市、湖西市、東伊豆町、川根本町、静岡県

項目	内容
自治体のインバウンド課題	体験コンテンツの開発、周遊の促進 2次交通の改善、デジタル観光案内 等
流れ	スタートアップからのエントリー募集 ↓ 応募のあったスタートアップ複数社に対して自治体側が書類審査 ↓ スタートアップとのマッチング ↓ 自治体×スタートアップによる実証実験を実施 ↓ 実証実験に関する成果発表（3月予定）

課題・実証実験

○R.6.12～R7.3にかけて、課題解決に向けた実証実験を実施

○実証実験の成果を踏まえ実装を検討



自治体 × スタートアップ	課題	実証実験	区分
東伊豆町 × ニューピース	お土産の販売・選び時間の効率化	お土産モバイルオーダーの仕組み構築	情報発信
下田市 × thee moment	訪日客向け多言語での情報発信	6か国語対応のデジタルマップ作成	多言語対応
県スポーツ局 × KAI堂	武道を活用したツーリズム推進	武道による付加価値商品の造成	商品造成
県文化局 × CHAOSRU	日本平文化施設の周辺滞在の促進	XR技術を活用したイベントの企画	

12

【③SHIZUOKA INBOUND TOURISM INNOVATION 2024】

- ・インバウンド観光客に関わる様々な課題解決に取り組むため、(株)静岡銀行、Creww(株)と連携し、県内8自治体とスタートアップ企業のアイデアをマッチングするプロジェクト
- ・体験コンテンツの開発や周遊促進、2次交通の改善、デジタル観光案内などの課題解決に取り組む
- ・3月に、実証実験に関する成果発表を実施予定

④伊豆半島の沿岸利用状況調査（伊豆観光局）

事業背景・目的

- 伊豆半島は熱海市から沼津市までの319kmに及ぶ海岸線を有し、ジオサイトをはじめとする自然景観に恵まれている。
- 港湾(8)・漁港(37)・海の駅(7)、海水浴場(43)・民間マリーナ(23)等、利用形態が多様
- 海岸線利用の現状調査並びに、市町、漁業協同組合、事業者へのヒアリングによる課題の洗い出しを行い、マリンレジャーの可能性、ジオパークの活用及び交流人口拡大の方策を検討する。

課題・特徴的な取組

【課題】

- 行政施策における位置づけの明確化
- 漁業とのすみ分け（利用エリア・ルールづくり）
- 海利用のマナー啓発と安全担保の体制づくり
- サイトマネジメント・サービス提供体制の構築
- 海に親しむ文化と来訪者を歓迎する機運の醸成
- 駐車場対策



【特徴的な取組】

- 漁業協同組合、ダイビング事業者間でのルールづくり（沼津市大瀬崎）
- 漁業協同組合によるダイビング施設の運営（沼津市・平沢マリンセンター）
- アプリでの釣り場・駐車場の予約システム（西伊豆町・海釣りGO）
- アウトドア・自然体験の情報発信（下田市・し〜もん）
- 地元の小学生を対象とした自然体験教室（伊東市）

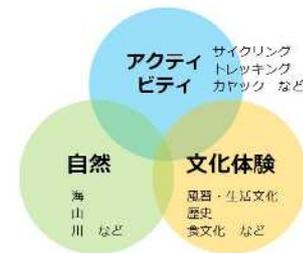
沿岸部の活用を図るため、地域の特性に応じた活動フィールドの整備、拡充とあわせて、これらの機能を具備した体制をつくり、ツーリズムにつなげていく必要がある

〈参考〉アドベンチャーツーリズム

【定義】

アクティビティ、自然、文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行

旅行者が地域独自の自然やありのままの文化を体験し、自己変革・成長の実現を目的とすることが特徴



【④伊豆半島の沿岸利用状況調査】伊豆観光局

- ・伊豆半島は319kmに及ぶ海岸線を有し、ジオサイトをはじめとする自然景観に恵まれている
- ・港湾、漁港、海の駅、海水浴場、民間マリーナ等、利用形態が多様
- ・海岸線利用の現状調査並びに、市町、漁業協同組合、事業者へのヒアリングによる課題の洗い出しを行い、マリンレジャーの可能性、ジオパークの活用及び交流人口拡大の方策を検討する
- ・調査の結果、上記のような課題や先進的な取組が見つかった
- ・沿岸部の活用を図るため、地域の特性に応じた活動フィールドの整備、拡充とあわせて、これらの機能を具備した体制をつくり、ツーリズムにつなげていく必要がある

治山工事での木材利用



静岡県賀茂農林事務所

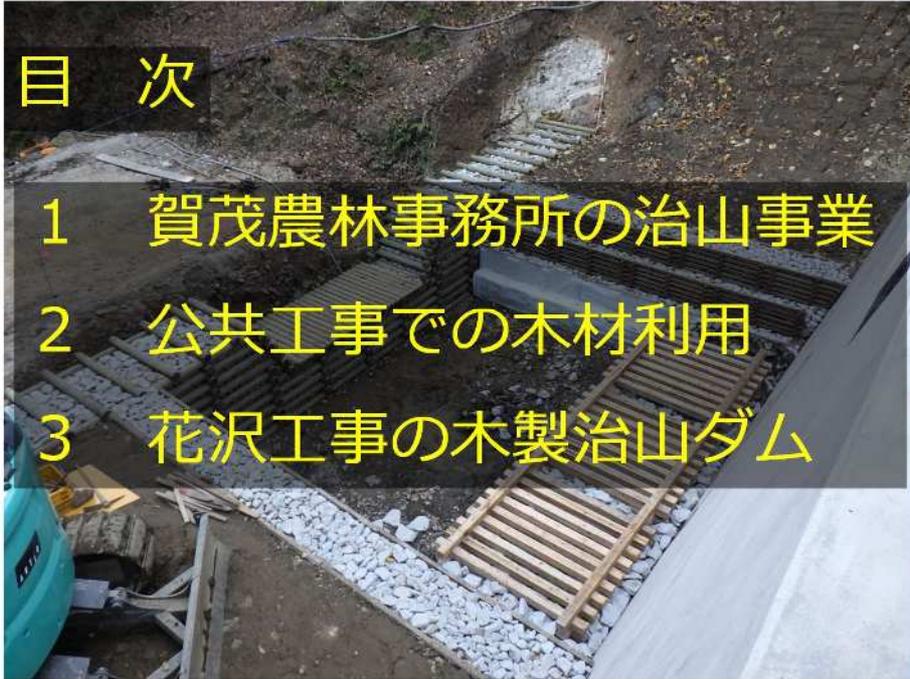
1

- 静岡県の面積の64%は森林で人工林はその6割
- 人工林の9割は41年生以上の森林で利用時期
- 人工林は、間伐など、人が手を加える事により初めて健全な状態となる
- 県は人工林の循環利用、すなわち、伐って、使って、植えて、育ててまた伐るという事を推進
- そのため、伐った木を活用する県産材の利用を全県を挙げて実施
- 建築物、公共工事で積極的な利用を促進
- 今年度、賀茂農林事務所では、初めて木製の治山ダムを施工した
- 今回、治山事業の概要と木製治山ダムについて発表する

治山工事での木材利用

目次

- 1 賀茂農林事務所の治山事業
- 2 公共工事での木材利用
- 3 花沢工事の木製治山ダム



2

今日の発表の内容

- ・賀茂管内の治山事業を紹介
- ・公共工事での木材を利用方法
- ・今回木製治山ダムを施工した花沢工事について

治山事業とは

○目的

山地災害から県民の生命・財産を守る

水源のかん養、生活環境等の保全・形成

○手段⇒森林の維持・造成

溪間工、山腹工、保安林整備、防災林造成

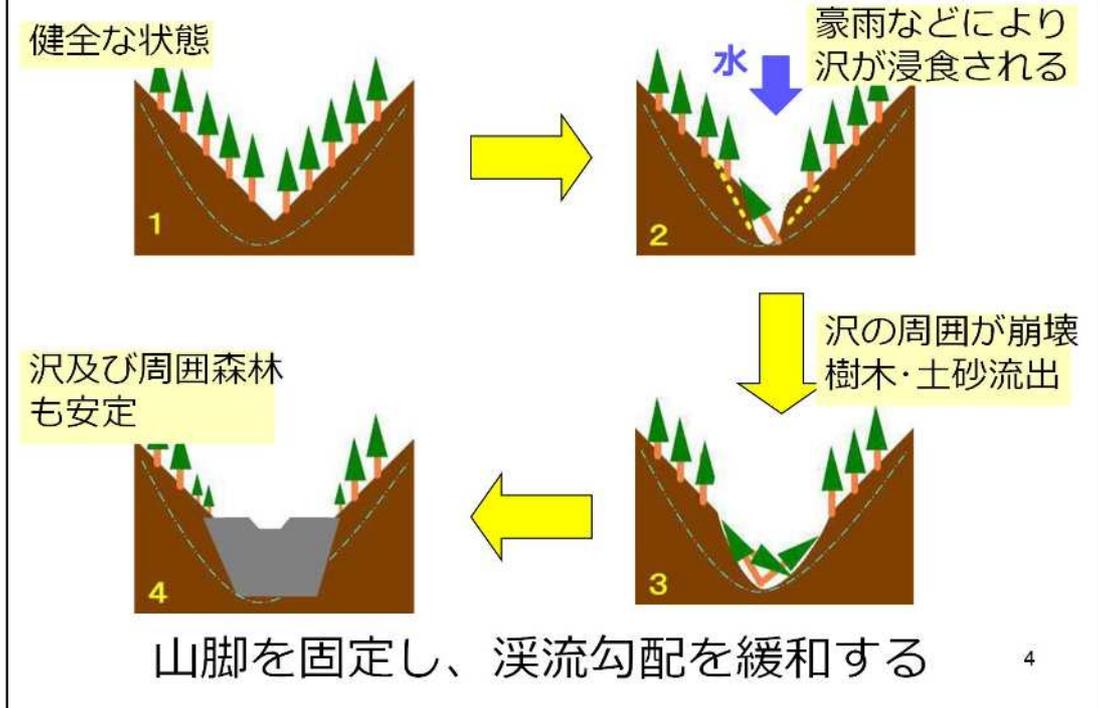
○効果

荒廃地の復旧や山地災害の予防

令和5年度復旧治山 広川原平工事（西伊豆町大沢里）³

治山事業の目的、効果等を説明

溪間工（治山ダム）の効果



溪間工(治山ダム)の効果の説明

賀茂農林事務所の治山事業①

治山ダム工（谷止工）

浸食を抑止、堆積土の
流出を抑止



施工前：山地溪流部が浸食
人家裏に土石が流出



施工後

令和5年度緊急予防治山 高馬工事（下田市高馬） 5

賀茂農林事務所の治山工事について5年度の施工箇所を例に紹介

令和5年度予防治山 高馬工事

谷止工1基を新設

賀茂農林事務所の治山事業②

流路工（治山ダムの床固工と護岸工）



施工前：既設谷止工の下流
の溪床が浸食

乱流を抑制、浸食拡大を
防止



施工後

令和5年度県単治山 星原工事（河津町大鍋）

6

河津町大鍋の令和5年度県単治山 星原工事

治山ダムの一種の流路工として床固と護岸を施工し、安全な水の流れを確保

賀茂農林事務所の治山事業③

山腹工

土留工と緑化工で
表層崩壊を復旧



施工前：表層が崩壊し、表土が
下方の道路に流出



施工後

令和5年度県単治山 中古山工事（松崎町池代）

7

山腹工の事例

松崎町池代で施工した令和5年度県単治山 中古山工事

土留工と緑化工により崩壊斜面を復旧

公共工事での木材利用

「“ふじのくに”公共建築物等木使い推進プラン」

公共施設整備・公共土木工事 において
県産木材の積極的利用を図る。

(目標：23,000m³/年)



令和5年度復旧治山 大付工事 (東伊豆町片瀬)

8

公共工事での木材利用の状況

「“ふじのくに”公共建築物等木使い推進プラン」に基づき、
公共建築物だけでなく、公共土木工事においても
県産木材の積極的利用を推進

写真:令和5年度に東伊豆町で実施した復旧治山大付工事
山腹の復旧と緑化の基礎工として、丸太土留工や木柵工を採用

公共工事での木材利用

土木施設

木柵工



【近景】



【遠景】

【木柵工】

事業名	令和4年度森林環境保全整備地八吉沢線S工区工事
所在地	浜松市天竜区佐久間町浦川
県産材使用量	1.2m ³ (スギ・ヒノキ)
事業費	35,600千円
事業主体	静岡県(西部農林事務所天竜農林局)
特徴	景観に配慮した工法。 県産材を積極的に利用している。

9

静岡県での公共土木工事での木材利用事例を紹介

林道工事の法面下部の木柵工の施工事例。多用されている。

公共工事での木材利用

土木施設

丸太柵工



【丸太柵工】全景



【重機進入路復旧箇所】



【近景写真】

事業名	令和4年度(補正)治山(復旧)桑木穴工事
所在地	富士市南松野
県産材使用量	9.34㎡(スギ)
事業費	17,960千円
事業主体	静岡県(富士農林事務所)
特徴	表面浸食の防止及び重機進入路復旧のための柵工に県産材丸太を使用することで、県産材の利用促進を図った。

10

表土を固定するため、丸太柵を使用した事例

公共工事での木材利用

土木施設

木製階段



【全景】 マツ林と木製工作物により防潮堤の圧迫感を緩和



【上部】 雨水対策であえて高上げた



【横木】 踏みやすさを重視し角材とした

事業名	令和5年度県単治山(施設等管理)新橋町工事
所在地	浜松市中央区新橋町ほか
県産材使用量	4.37m ³ (スギ・ヒノキ)
事業費	20,000千円
事業主体	静岡県(西部農林事務所)
特徴	浜松市沿岸域に整備した防潮堤への昇降階段。 防潮堤は、平時には生活環境保全林として利用される。 転倒防止の工夫として、横木を角材にした。

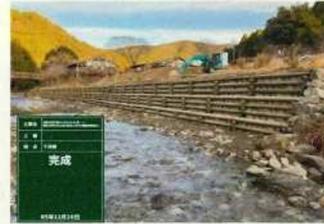
11

浜松の防潮堤の管理歩道の木製の階段工

公共工事での木材利用

土木施設

護岸工



【木柵護岸完成】



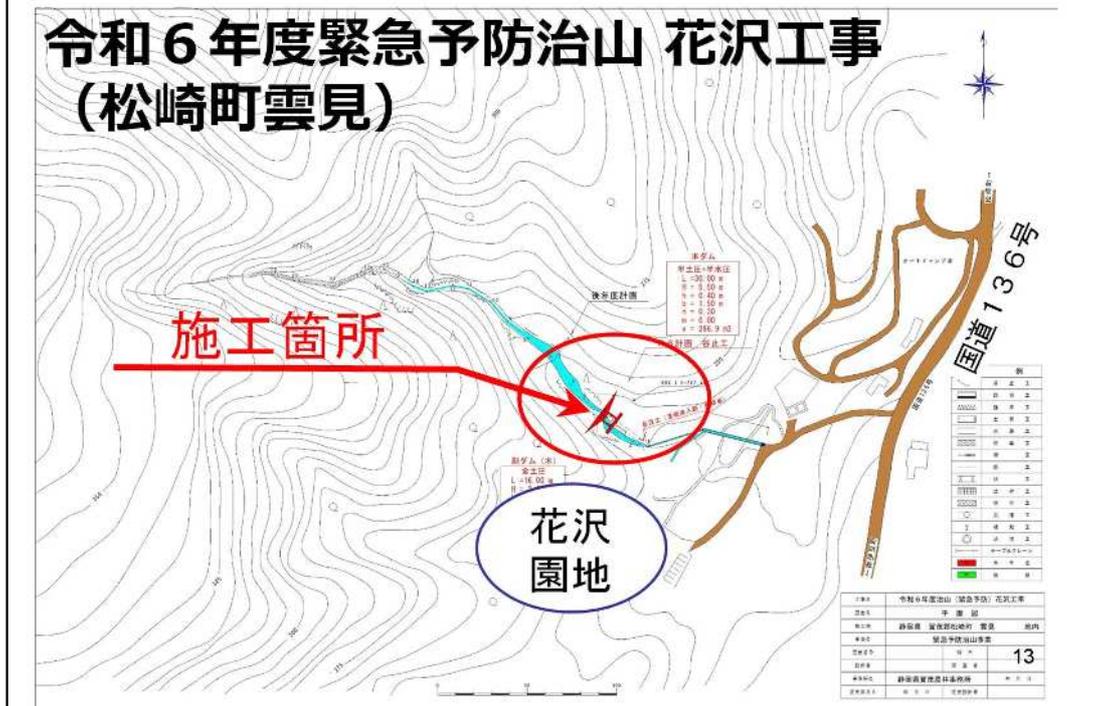
【木柵護岸完成】

事業名	令和4年度[第34-K3265-01号]一級河川阿多古川 河川改良工事(木柵護岸修繕工)
所在地	浜松市天竜区熊地先
県産材使用量	18.75m ³ (スギ) φ120×1500 306本、φ120×2000 600本
事業費	22,473千円
事業主体	静岡県(浜松土木事務所)
特徴	道の駅くんまの里の下流に位置し、既設木柵護岸が老朽化により破損したため、県産材を使用した木柵護岸工を整備した。

【施工状況】

土木事務所施工の河川の護岸工事にも木材を使用しています。
丸太で枠を組み、その中に石を入れるという工法になります。

花沢工事の木製治山ダム



今回の木製治山ダムを施工した令和6年度花沢工事について説明
 施工箇所は松崎町雲見で、国道136号線に近接し、
 花沢園地に隣接、近くには民間のキャンプ場がある。

花沢工事の木製治山ダム



管内には海岸部と天城連峰が富士箱根伊豆国立公園に指定
施工箇所は国立公園指定区域と非常に近く、国道にも近接し、
観光客等も立ち寄るような場所であり、景観にも配慮が必要

花沢工事の木製治山ダム

位置：富士箱根伊豆国立公園に近く、松崎町花沢園地に隣接



花沢園地：
ホタルの沢が整備され
観光スポットとなっている

15

隣接する花沢園地は松崎町が整備した公園

芝生広場やホタルの沢が整備されており、観光スポットの一つ

花沢工事の木製治山ダム

景観に配慮し、治山ダム本堤の下流の副堤を木製ダムとして施工



16

本工事は、本堤と副堤の2基の治山ダムを施工する計画

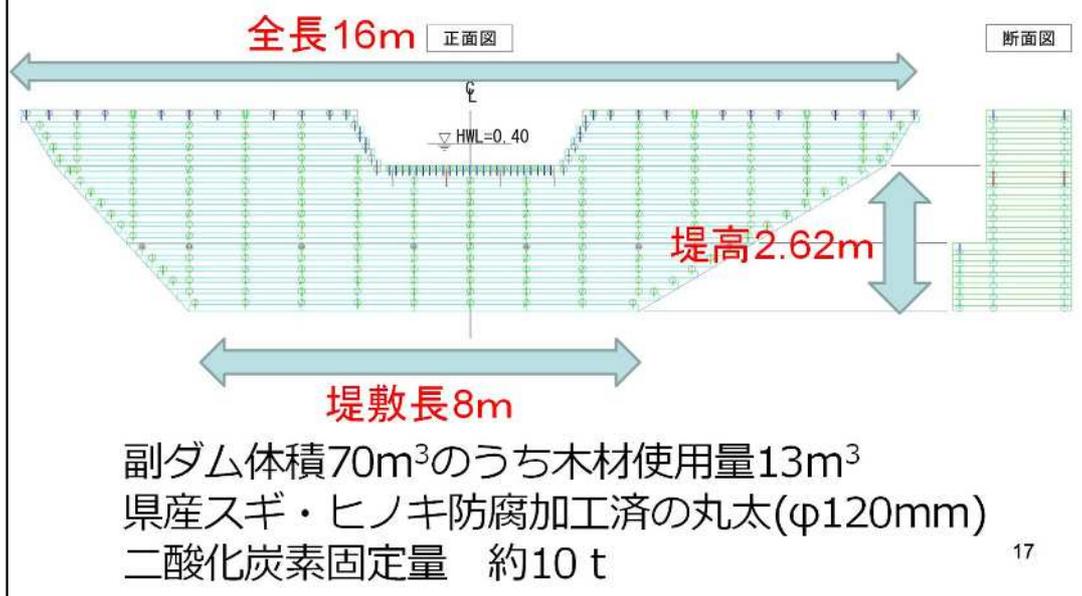
木材利用の推進と景観に配慮し、

本堤の下流側の副堤を校倉式木製治山ダムとして施工を決定。

木製治山ダムは、他の農林事務所では施工しているが、賀茂管内では、はじめての施工。

花沢工事の木製治山ダム

木製校倉式副ダム



木製の副堤の構造図。

校倉式なので、丸太を井桁に組み、ボルトで連結して枠を作り、中に石材を投入して組み立てる。

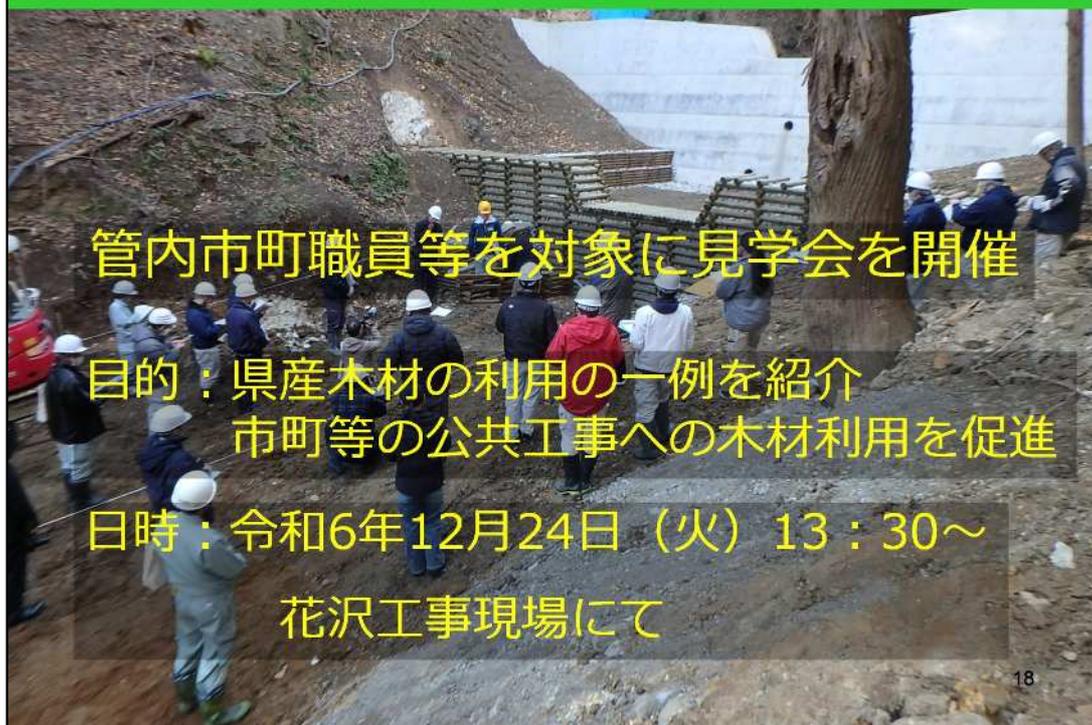
施工性は非常に良好。

材料は、県内で生産されたスギ・ヒノキ材を、防腐加工し、高耐久性のある丸太にして使用。

副堤に使用された木材は約13m³で 二酸化炭素に換算すると、約10Co2トンを固定しており、

地球温暖化対策にもつながった。

花沢工事の木製治山ダム



昨日は、市町職員などを対象に当該工事の見学会を開催し

計30名ほどが参加し、公共工事での木材の使い方、

配慮事項、施工性などを確認



景観に配慮でき、観光にも貢献、さらに地球温暖化防止にも寄与する

木製構造物を、公共工事など活用していきたい。

行事予定表（令和7年1月分）

日	曜日	賀茂地域局	下田財務事務所	賀茂健康福祉センター	賀茂農林事務所	下田土木事務所
1	水					
2	木					
3	金					
4	土					
5	日					
6	月					
7	火					
8	水					
9	木					
10	金	防災講座 13:35-15:25 熱川中学校				
11	土					
12	日					
13	月					
14	火					
15	水					
16	木	防災講座 10:35-12:15 大賀茂小学校				
17	金	大規模図上訓練 8:30~12:00 賀茂危機管理庁舎				
18	土					
19	日					
20	月					
21	火	防災講座 10:00-10:50 わかば保育園				
22	水					
23	木					
24	金	定例記者懇談会 9:30~ 賀茂キャンパス				
25	土					
26	日					
27	月					
28	火	防災講座 9:30-10:30 仁科認定こども園				
29	水	防災講座 10:00-11:00 松崎幼稚園		賀茂圏域生活習慣病対策連絡会 14:00~16:00 賀茂キャンパス		
30	木					
31	金		スルガ銀行派出所廃止 (2/3~ 入金機導入)			

行事予定表（令和7年1月分）

日	曜日	農林技術研究所 伊豆農業研究センター	水産・海洋技術研究所 伊豆分場	賀茂広域 消費生活センター	賀茂地域 教育振興センター	伊豆観光局
1	水					「ゆるキャン△」スタンプラリー ～2/28
2	木					
3	金					
4	土					
5	日					
6	月					
7	火					
8	水					
9	木					
10	金					
11	土					
12	日					
13	月					
14	火					
15	水					
16	木					
17	金					
18	土					
19	日					
20	月					
21	火					
22	水					
23	木					
24	金					
25	土					
26	日					
27	月					
28	火					
29	水					
30	木					
31	金					

地震対策オペレーション2025（大規模図上訓練）
～賀茂方面本部運営訓練の実施について～

（賀茂地域局）

大規模地震を想定し、情報の迅速かつ的確な収集及び伝達を国、市町及び関係機関と連携して行う賀茂方面本部運営訓練を実施します。

（概要）

1 日 時

令和7年1月17日（金） 8時30分～12時

2 参加予定者

静岡県、賀茂地域1市5町、陸上自衛隊、下田海上保安部、下田警察署
下田消防本部、沼津河川国道事務所、東京電力パワーグリッド(株)

3 会 場

賀茂危機管理庁舎3階 方面本部室

※健康福祉班（一部）、農林班、土木班等は下田総合庁舎で訓練実施

4 スケジュール

8時30分	訓練開始
10時頃	対策会議
10時30分	方面本部員会議
11時45分	賀茂方面本部長講評
12時	終了

5 訓練想定

- ・1月16日（木）8時30分頃、南海トラフ沿いで巨大地震が発生
- ・地震発生から24時間経過した想定で訓練を実施
- ・大津波襲来により沿岸部で著しい被害

6 その他

- ・気象に関する警報が発表された場合、県内で震度4以上の地震が発生した場合は訓練を中止します。
- ・訓練中の職員に対する取材は御遠慮願います。

担 当：危機管理課
連絡先：0558-24-2004

定例記者懇談会資料

1月の防災講座

(賀茂地域局)

(概要)

賀茂地域局では、地域防災力を強化するため、自主防災組織、教育機関等と連携し、防災講座を開催する。

(開催スケジュール)

	実施日時	実施場所	実施対象	内容等
①	1月10日(金) 13:35～15:25	熱川中学校 (東伊豆町)	全校生徒 約70人	災害時判断ゲーム
②	1月16日(木) 10:35～12:15	大賀茂小学校 (下田市)	全校児童 約40人	地震体験(車)、他
③	1月21日(火) 10:00～10:50	わかば保育園 (河津町)	3～5歳児 約20人	地震体験(車)
④	1月28日(火) 9:30～10:30	仁科認定こども園 (西伊豆町)	4、5歳児 約30人	防災かるた
⑤	1月29日(水) 10:00～11:00	松崎幼稚園 (松崎町)	4、5歳児 約30人	地震体験(車) 防災かるた

(お願い)

- ・ 防災講座の取材においては、各学校まで取材を行う旨をご連絡ください。
- ・ 講座の内容については、変更になる場合があります。
- ・ 講座の内容に関するお問合せは下記担当までお願いいたします。

担 当：危機管理課 鈴木
連絡先：0558-24-2004

定例記者懇談会資料

令和6年度賀茂圏域生活習慣病対策連絡会

(賀茂健康福祉センター)

(目的)

「第4次静岡県健康増進計画」の賀茂地域別計画に基づき、圏域住民の生活習慣病予防対策を総合的に推進するため、令和6年度賀茂圏域生活習慣病対策連絡会を開催することで地域・職域関係機関の情報共有及び連携強化を図る。

(概要)

会議名	令和6年度賀茂圏域生活習慣病対策連絡会
日時	令和7年1月29日(水) 午後2時から4時まで
会場	静岡県下田総合庁舎 2階第8会議室 賀茂キャンパス (下田市中531-1)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次静岡県健康増進計画について ・地域職域で進める生活習慣病予防対策(賀茂地域健康寿命延伸等協議会の取組)について
構成委員	賀茂医師会、賀茂歯科医師会、賀茂薬剤師会、 静岡県国民健康保険団体連合会、全国健康保険協会静岡支部、 三島労働基準監督署下田駐在事務所、健康づくり食生活推進協議会、 管内市町商工会議所及び商工会、管内各市町 並びに静岡県賀茂健康福祉センター

(その他)

- ・取材いただける場合は会議前日までに御一報ください。

担当：健康増進課 金高
連絡先：0558-24-2037

定例記者懇談会資料

本県オリジナルの鉢物用花き「ビジューマム」3品種を育成

(伊豆農業研究センター)

1 概要

伊豆農業研究センターは、マーガレットとローダンセマムの雑種である鉢物用花き「ビジューマム」について、新たに3品種を育成した。

2 目的

同センターでは、鉢物、花壇苗で人気があるマーガレットと同じキク科のローダンセマムの雑種育成に世界で初めて成功し、「ビジューマム」として育種を進めてきた。これまで品種登録され、販売店でも人気が高い4品種に加え、新たに3品種の種苗登録を出願し、令和6年10月24日に出願公表^{*1}された。3品種は赤系統の花色が中心であったビジューマムに無かった色であり、ビジューマムシリーズとして多様な組み合わせでの販売が可能となる。

^{*1} 農林水産省が品種登録出願を受け付けた後、その内容を公表すること。公表後は育成者件が仮保護される。

3 「ビジューマム」新品種の特徴

- ・草丈が低く、鉢植えや花壇苗に適する。
- ・寒さに強く(耐寒性がある)、県内の暖地では無加温で栽培が可能。
- ・ビジューは「宝石」を意味し、マムはキク科の愛称。各品種とも宝石にちなんだ名称としている。
- ・開花期は2～6月で他のビジューマムと同時期



4 今後の予定

農林水産省の審査を経て、3年程度で品種登録される見込みである。3品種は既存の品種を栽培している県内生産者団体と許諾契約を締結し、令和7年初頭から販売される見込みである。

担 当：生育・加工技術科 石下
連絡先：0557-95-2341